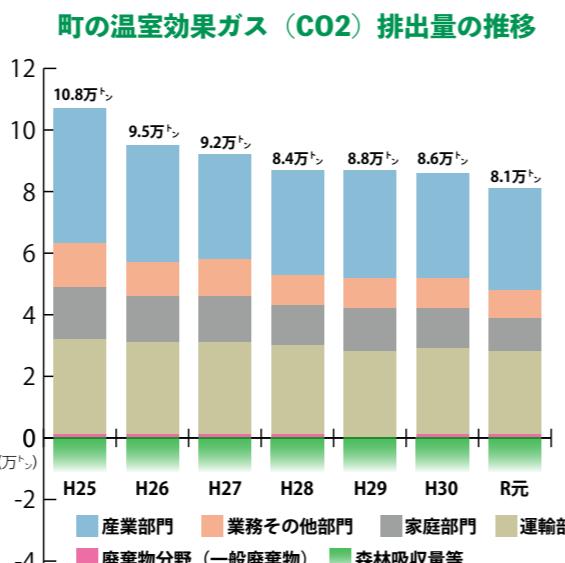


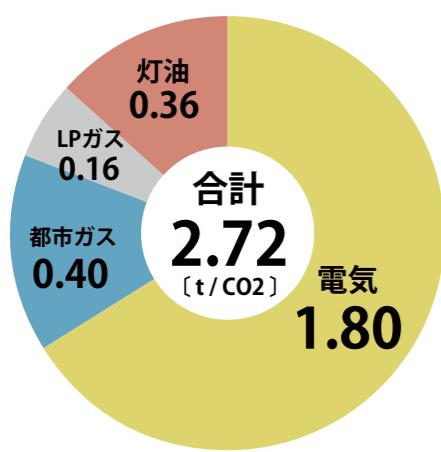
町ではどのくらいの 温室効果ガスを 排出しているのか？

環境省が公表する自治体排出量カルテによると、町では年間約8～11万トンの温室効果ガス(CO₂)を排出しています。内訳については、令和元年度を例にとると、運輸部門(自動車の利用や鉄道の運行等)及び家庭部門(エアコン、照明の使用等)で、全体の約5割を占めています。



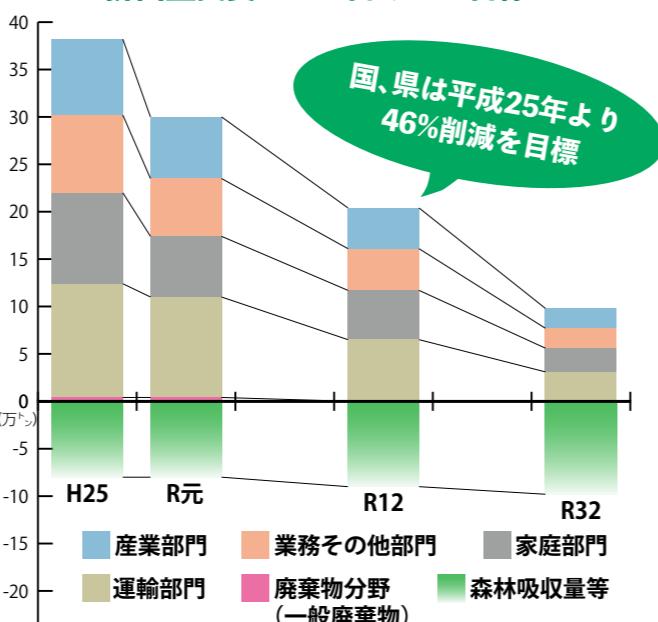
林野庁によると、1haあたりの36～40年生のスギ人工林が1年間に吸収する二酸化炭素の量は約8.8tと推定されています。しかし、近年林業の衰退により、光合成量の少ない老木が増えているのが現状です。植林や間伐等、森林整備をすることで森林は若返り、吸収量は拡大します。町の7割は森林といわれています。この恵まれた自然環境を享受し、誇るべき財産として、未来を担う次世代に引き継いでいきましょう。

暮らしの中で
どこからCO₂を排出しているのでしょうか？



世帯当たり年間エネルギー種別
CO₂排出量・構成比(平成31年度)
※調査の対象期間は平成31年4月～令和元年3月の1年間

3町1村による
排出量実質ゼロに向けての目標



家庭で排出するおよそその年間の温室効果ガス(CO₂)排出量を計算してみましょう！

- 電気の使用量： kWh × 0.447 (今月の電気使用量) × 12か月 = (kg) (年間のCO₂総排出量)
- ガスの使用量： m³ × 3.00 (LPガス) × 12か月 = (kg) (年間のCO₂総排出量)
- 燃料使用量： ℥ × 2.49 (灯油) × 12か月 = (kg) (年間のCO₂総排出量)

ときがわ町 毛呂山町 越生町 東秩父村『山並み連携』 ゼロカーボンシティ共同宣言を表明しました



近年、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加を要因とする地球温暖化の進行により、世界規模で自然災害が増加しています。2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力すること」とされ、また、政府は2020年10月、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることを目指すと宣言しました。それに伴い、環境に対する社会全体の意識や関心が高まっており、脱炭素社会に向けた動きが加速しています。こうした状況を踏まえ、令和4年12月25日(日)、堂平天文台(大字大野地内)にて、美しい山並みが連なったときがわ町、毛呂山

町、越生町、東秩父村の3町1村で、「森林と木」を生かした施策を展開し、2050年までに二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ共同宣言」を表明しました。

ゼロカーボンとは？

ゼロカーボンとは、企業や家庭が排出する二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林等の「吸収量」を差し引いて、排出量の合計を実質的にゼロにすることをいいます。その実現を目指す地方公共団体を「ゼロカーボンシティ」と呼びます。



環境省「脱炭素ポータル」より抜粋

脱炭素に向けた主な取組・施策

- 森林再生による緑の循環システムの推進
- ごみ減量化の推進
- 再生可能エネルギー利用の促進

